

# 令和4年度 長崎県立上五島高等学校「ふるさと教育」体系図

学校番号

32

若者が島の未来をつくる ～島の魅力を島外へ、島の未来を私たちで～

現 状	新上五島町は、日本創生会議が発表した「2040年の消滅可能性都市」の中に含まれている。2000年には15,957人いた生産年齢人口が、2015年には10,214人まで減少し、現在も減少の一途を辿っている。さらに、年少人口においては、2000年には、4,721人存在したが、2015年には、2,053人と約半数に年少人口が減少している。このまま町の生産年齢人口・年少人口が減少し続けると、町の生活水準・産業の衰退が問題となってくる。また、世界遺産に登録された恩恵も一時的なものとならないために、地域の歴史をさらに深く知る必要がある。		
課 題	人口減少	郷土の歴史・文化資産について島内外を含めた低い認知度	地域産業の活性化
目 標	地域を巻き込んだ「ふるさと教育」を展開することで、高校生や地域住民の方々で一丸となった“新”上五島町を創造し、より一層の郷土に対する愛着や使命感を育む。		



## 総合的な探究の時間

1年次	2年次	3年次
<ul style="list-style-type: none"> <li>□課題探究にかかる情報収集の仕方やデータのまとめ方を身に付ける</li> <li>□新上五島町の課題を発見し、調査の指針を立てる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□1年次で考え出した課題を研究・調査し、解決策を提示する。</li> <li>□提示した内容の評価・改善を行い、今後の展望を考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□1～2年の学びを活かした進路選択をする。</li> </ul>
<b>研究成果の発表</b> 中間発表：(1年) 令和4年10月 (2年) 令和4年6月 最終発表会(2年)：令和5年1月		

電気情報科による課題研究

ボランティア・インターンシップ・生徒会企画等

新上五島町役場等の地域機関

協力

### ふるさと教育推進委員会

委員長：校長 副委員長：教頭  
委員：総務主任、進路主任、生徒会主任、各学年主任、電気情報科主任

協力

大学・専門機関等

育成したい力	郷土に対する「愛着」「誇り」「使命感」の育成	思考力・判断力・表現力・コミュニケーション力の育成	学びに向かう主体性・協働性の育成
	郷土の文化・歴史を理解し、現在の新上五島町に貢献できる力	自分が考えや意見を相手に対して、論理的に説明できる力	課題に対して、自ら考え、行動し、協力者とともに解決していく力
成果指数	身についたと答えた生徒が85%以上		

持続可能な開発目標 (SDGs) の17のゴールの内、4(質の高い教育をみんなへ)・8(働きがいも経済成長も)・11(住み続けられるまちづくりを)・14(海の豊かさを守ろう)・15(陸の豊かさを守ろう)の項目を狙いとしている